大戦略同盟を確立せよ

不仁者の為に死せず

永禄4年（1561）2月、織田方から家康公に和睦の申し入れがありました。その時、家臣たちと話し合った際、家康公はこう言ったと伝えられます。「義者は不仁者の為に死せず、智者は闇主の為に謀らず」と。今川氏真と断交する決意の表明でした。そして、家康公は信長との同盟を結んだのでした。

清州同盟の始まりは領土協定から

これは『参州一向宗乱記』に記された逸話です。家康公の言葉の意味は「正義の士は冷酷な君主のために死なない。また、智謀の士は暗愚な主君のためには謀らない」。兵法書『三略』からの引用です。信長との清州同盟は、今川との断交を決断することでもありました。三河平定のため、西三河・織田方の城から東三河・今川方の城へ攻撃目標を転換する意図もあったでしょう。この時点では、同盟の目的は互いを攻めない領土協定だったと言われます。東に向かいたい家康公と、西に集中したい信長の利害が一致したのです。

支え続ける努力が奇跡を生み出した

この清州同盟は実に21年間も継続。数年で破棄が常識の時代に奇跡と呼ばれます。戦略家エドワード・ルトワックは「自分に勝る国家に勝ちたい場合は、敵よりも大きな同盟が必要」、さらに「適切な同盟相手を選び、戦術レベルでの敗北に耐え続ければ、100回戦闘に敗れても、戦争に勝つことができる」と言います。武田氏は強敵であり続け、信長は成長し続けている。挟まれて勢力拡大できない自分は、同盟を戦線協定や攻守同盟へと進化させるしかない。奇跡は、家康公が支え続けた努力の結果といえるのかもしれません。

参考文献　『定本徳川家康』/『日本思想体系17蓮如・一向一揆』/『信長と家康　清州同盟の実体』/『戦争にチャンスを与えよ』

文・鈴木厚夫/家康公商品開発プロジェクト相談員担当専門家、プランナー、E-アーキテクト代表